宮城の地域資源探訪

鳴　子　漆　器

●鳴子の伝統的工芸品

温泉地として知られる大崎市鳴子では、江戸時代から木地師（ロクロを使って木材から日用品などを作る工人）たちがお椀やお盆などを作る傍ら、こけしや独楽などの木地玩具を作っていました。お椀やお盆などは鳴子漆器のルーツとなり、こけしは宮城伝統こけしの１つ（鳴子系）として現在に伝えられています。

平成３年に鳴子漆器が国の伝統的工芸品に指定されたことで、昭和56年に指定されていた宮城伝統こけしと合わせて、鳴子は２つの伝統的工芸品を持つ全国でも珍しい地域になりました。

〇宮城伝統こけし

宮城県には遠刈田、弥治郎、鳴子、作並、肘折の５系統の伝統こけしがあり、それぞれに産地の風土を反映した製作技術や形態、模様などの特色を持っています。

鳴子系のこけしは、全体の豪華な華やかさの中に、童のようなやさしい顔の表情が素朴さと清楚さを添えていることが魅力とされており、御所人形のような前髪と菊を主体に彩られた華やかな胴模様、どっしりと安定感のある全体像などが特徴です。また、首を回すとキイキイと鳴ることで知られ、土産品として人気があります。

【　コ　ラ　ム　】

～伝統的工芸品～

伝統的工芸品産業の振興に関する法律（昭和49年）に基づき、経済産業大臣が指定する日本の伝統工芸品のことで、次の５つの要件が必要とされており、平成21年４月現在、全国では211品目が指定されています。

①主として日常生活で使われるもの
②製造過程の主要な部分が手作り
③伝統的技術または技法によって製造
④伝統的に使用されてきた原材料
⑤一定の地域で産地を形成

一方、宮城県が伝統的工芸品振興対策要綱に基づき指定する県内の工芸品は、昭和57年の８品目に続き、同59年（２品目）、同60年（６品目）、平成２年（２品目）に追加指定が行われ、平成22年４月１日現在、18品目となっています。

●鳴子漆器の歴史と特徴

鳴子の漆工業は、江戸時代初期の寛永年間（1624～1644年）には創始されていたと伝えられています。そして、寛文年間（1661～1673年）には岩出山城主の伊達弾正がその振興を図るため、地元の職人を京都に派遣して修行させたことから技術が改善され、文化・文政（1804～1830年）の頃には湯治客等の土産物としてだけでなく、地区外からの相当量の注文にも応じ得る基礎ができていたといわれています。

椀や盆、箸、菓子器などの日用品を中心として作られてきた鳴子漆器の特徴は、挽物木地の塗立て技術にあるとされ、素朴な中に奥深い味わいを持つ木地呂塗やふき漆塗、紅溜塗、また墨を流したような模様を描き出す鳴子独特の竜文塗などが知られています。また、幾重もの重ね塗りにより長期の使用に耐え得る丈夫さとしっとりとした美しさを兼ね備えており、年月を経るごとに漆の透明感が出て木目の美しさが生きてくるといわれています。昭和57年には雄勝硯（同60年に国指定）や白石和紙、堤焼など７品目とともに県の伝統的工芸品に指定されました。

鳴 子 漆 器

写真提供：宮城県観光課

●NARUKO ブランド

温泉町の発展とともに受け継がれてきた鳴子の伝統産業は、生活様式の変化や安価な生活用品の普及、観光客の減少などから生産・売上の減少が続き、高度な技術を有する職人の高齢化・後継者不足の問題も深刻な状況にあるといわれています。一方、健康や環境問題に対する意識の高まりなどから、近年、手作りの良さや自然材のぬくもりが見直されるようになってきています。

こうした中、こけしの玩具性と漆器の多彩な塗り立て技術を反映させるという、2 つの伝統的な技法の融合によって生まれた新しいインテリアブランド「NARUKO」が注目されています。

NARUKO ブランドは、こけし（木地玩具）と漆器（漆塗り）の技法を融合させることによって 1 つの家具や調度品に仕上げたもので、平成 18～21 年度の国の支援（JAPAN ブランド育成支援事業）を受けて開発されました。漆器とこけしでは、使う木の種類や材質、加工の方法等がそれぞれ異なるうえに玩具と実用品という違いもあり、本来、2 つの技法で 1 つの作品を作ることは難しいとされていました。そこで、ともに木材を扱うという長年にわたって培われた 2 つの技法を活かし、こけしの玩具性と漆の有機的なイメージの両立を狙って、それぞれのパーツを組み合わせるという積木の発想が取り入れられました。これにより、なめらかな曲線のこけし木地に光沢のある漆が乗り、模様だけでなく塗りの仕上げまで多様な各パーツを自由に組み合わせることができる製品になりました。

近年広がりつつある、自然と共生しながら健康的に暮らす生活様式「ロハス」を基本理念に生まれた NARUKO ブランドは、木や漆という自然の素材に加え、曲線美と玩具性の要素を併せ持つ工芸品となっています。更に、積木の発想により限りない組み合わせパターンのデザインが可能と言われています。

【 コ ラ ム 】

～JAPAN ブランド育成支援事業～

全国各地の工芸品などを、世界に通用する新たなブランド（JAPAN ブランド）として再構築することで海外販路拡大を図るとともに、地域経済の活性化および中小企業の振興に寄与することを目的とした中小企業庁所管の補助事業です。ブランドの確立を目指す地域の中小企業等の取組みに対し、ブランドの創生から発展に向けて段階的に支援するもので、ブランド構築に向けた戦略策定支援と、個別の事業化に向けたブランド確立支援で構成されています。（平成 16 年度創設）

東北地方では、これまでに津軽塗や南部鉄器、会津塗などが対象になっていますが、NARUKO は 2 つの伝統的工芸品を融合させるという全国初の取組みになりました。現在、県内では「仙台箪笥（SENDAI TANSU）世界ブランド化プロジェクト」（平成 21 年度採択）が対象になっています。

●イベントなど

鳴子では、毎年 9 月上旬に全国こけし祭り・鳴子漆器展が行われており、今年は 9 月 4 日（土）～5 日（日）に第 56 回全国こけし祭り・第 20 回鳴子漆器展が開催されました。会場には東北をはじめとする各地の伝統こけしや創作こけし、鳴子漆器、新商品の NARUKO ブランドなどが展示され、多くの観光客が即売やこけしの製作実演、絵付け体験などを目当てに訪れました。

また、NARUKO ブランドは、国内ばかりではなく、パリやニューヨークでの展示会や見本市などへの出展を通じて伝統工芸の技と粋を世界に向けて発信しています。現代の生活に新鮮な彩りを与えてくれるものとして、作品のデザイン性や質の高さが評価されており、国内外から関心が寄せられています。

鳴子の漆器やこけしは、長年にわたって人々と生活をともにし、また魅了してきた貴重な地域資源です。2 つの技法の融合によって生み出された新しいブランド NARUKO とともに幅広い発信を続けることで、伝統工芸の確かな伝承と地域の賑わいにつながることが期待されます。

ＮＡＲＵＫＯブランド

写真提供：宮城県新産業振興課

（参考資料）

・経済産業省（中小企業庁、東北経済産業局）HP

・宮城県 HP　・宮城県商工会連合会 HP　新聞各紙ほか